

雨水(あまみず)の恵みと災いに、賢く折り合いをつけるには？

■ コンテストの概要

九州発「プロコン」は、九州産業大学建築都市工学部が、私たちの住まい、地域、そして国土をよりよくするために、将来に向けて考えるべきテーマなどを毎年掲げ、全国の高校生と一緒に考えようとするコンテスト形式のイベントです。

〈住居・インテリア〉の領域から〈建築〉の領域、さらに〈地域・コミュニティ〉の領域まで幅広い内容を扱います。設計部門とアイデア部門があり、**高校生であればどなたでも応募・参加**できます。

応募作品の中から一次審査を通過した入選者には、**秋の学園祭の時期に本学に来ていただき、最終発表会でプレゼンの上、各賞の入賞者を決定**します。

高等学校での日頃の学習やクラブ活動などの成果を活かして、ぜひともグランプリを目指して「プロコン」に挑戦してください。記念すべき第一回の課題は、昨今注目の「雨水(あまみず)」に関する課題です。高校生のフレッシュなアイデアをお待ちしています。

■ 課題の主旨

課題：「雨水(あまみず)の恵みと災いに、賢く折り合いをつけるには？」

豪雨災害が頻発しています。地球温暖化により年々激しさを増しています。とくに都市空間は、雨水が浸み込みにくいアスファルトやコンクリートで覆われています。また気温が周りより高くなるヒートアイランド効果によるゲリラ豪雨が加わります。その結果、河川や下水道に雨水が集中して溢れ、自然地域より浸水しやすくなります。

一方、私たちの生活には水が不可欠です。飲食、トイレ、洗濯やお風呂の水、農業/工業/都市用水——生活に潤いを与える公園やお庭でも水の存在は欠かせません。いずれも元は雨水です。水資源用のダムは洪水調整や発電にも使われて効果的である一方、自然を激変させ、集落をダム湖で奪い、建設/維持費が高額です。

こうしたことから、空間的に広く分散した雨水の管理が注目されています。自然を活かした公共施設=グリーン・インフラストラクチャや、雨を処理しながら楽しむ雨庭が、経済的でもあり、世界中の都市で取り入れられ始めました。

そこで都市全体から街区、建築敷地、建築物のエクステリア/インテリアに至るまでの、様々な雨水(あまみず)の扱い方、その恵みと災いに賢く折り合いをつけるアイデアと実現のための具体策を提案して下さい。

■ 各領域からのメッセージ

下記に本課題に対する各領域の審査委員からのメッセージを掲載します。課題に取り組む際に参考にしてください。

〈地域・コミュニティ〉領域

あなたが住んでいる地域を思い浮かべてください。豪雨が来たときに地域の人々が災害で困ってしまわないようにし、あわせて地域の環境をよくするためには、降った雨をあなたの住む地域(市町村や町内)のなかでどのように扱ったらよいでしょうか？大雨を防ぐのは地球規模の対策が必要でとても大切ですが、身近な場所で雨水を直接地下に浸透させたり、一時的に貯めたり、ゆっくり流したりすることが、被害を小さくするのに有効かもしれません。そのことを踏まえたうえで、河川、ダム、ため池、下水道、道路、公園、学校などのみんなのための公共施設で、雨水をどのように扱ったらよいでしょうか？植物や土や地形はどうしたらいいでしょうか？また、貯めた水の使い方の工夫は？

一方、地域が豪雨災害に備えて、情報の収集、伝達、そして避難を考えて、水防、復旧、さらに復興の活動と土地利用の計画を、町内会から市町村、そしてもうすこし広い範囲でつくるための工夫をすることも、とても大切なことでしょう。

このような視点から、あなたの住む地域において、雨水の扱い方を考えてみてください。

〈建築〉領域

建物の屋根や外壁への散水気化冷却、断熱性能向上を目的とする屋上・壁面緑化の灌水、中水利用(トイレ、洗車、散水)などは既に住宅や建築の領域で取り組まれています。技術が優先しデザインが追いついていません。

一方、建築は落水荘(フランク・ロイド・ライト設計)や本福寺水御堂(安藤忠雄設計)を例に挙げるまでもなく、水と良好な関係を築くことで数々の名建築が生み出されています。近年はポートランド(アメリカ)、シェフィールド(イギリス)、コペンハーゲン(デンマーク)などの欧米の都市で、建築物とマッチした美しいレインガーデン(雨の庭)の試みも見られるようになってきました。

このような雨水利用の新しいアイデアや技術とデザインが両立されている案を期待しています。

〈住居・インテリア〉領域

水は暮らしに欠かせません。皆さんも住まいの中の色々な場面で、水を使っているはず。日頃、どのように水を使っているかを思い出し、暮らしの中の水を雨水に置き換えてみたらどうなるか、考えてみてはいかがでしょうか？たとえばドイツでは、雨水をトイレ洗浄、洗濯、植栽の散水のために使うものと、飲み水に使うものとに分けて使う仕組みができています。

また、雨水を生活用水に使うだけでなく、雨水を感じたり、雨水で演出したりするしかけも考えてみましょう。雨水の性質をふまえて、住宅の屋根、床、窓、壁などやインテリアの要素と絡めながら、雨水を集めたり、貯めたり、流したりと、色々な扱い方の可能性があると思います。

■ 部門と提出物

a) 設計部門：具体的なまち・建築・住宅・インテリア・装置などの設計（設計図面を提出）

- ・ 設計内容を、配置図、平面図、断面図、立面図、展開図、透視図、スケッチ、説明図、模型写真等適宜選択（縮尺自由）および作品名、設計主旨などを用い、**A1判用紙（841mmX594mm）横使いの設計図面**にまとめてください。
- ・ 紙質はケント紙あるいはそれに類する厚紙。パネル化は不可。規格外の提出図面は審査対象外とします。
- ・ 作図方法は、手書き、CAD、着色の有無等自由です。
- ・ 設計図面には氏名および学校名等、応募者が特定される情報の記入は不可とします。
- ・ 応募用紙（コピー可）に必要事項を記入の上、**同封して提出**してください（のり等による設計図面への貼付け不可）。

b) アイデア部門：研究調査に基づいたアイデアの提案（図表と文書を組み合わせた提案書を提出）

- ・ 提案内容を、文章（合計で1000～1200文字。文字大きさを10pt以上）および内容をわかりやすく示す図や表、スケッチやダイアグラム、写真などを用い、**A3判用紙（420mmX297mm）横使い2枚から4枚の提案書**にまとめてください（表紙含む）。
- ・ 紙質は自由。左端ホチキス2点止めの冊子とする。規格外の提案書は審査対象外とします。
- ・ 図表等の体裁は自由（手書き、着色、パソコンソフト使用等）です。
- ・ 表紙には作品名を明記してください（表紙にそれ以外の内容が含まれていても良い）。
- ・ 提案書には氏名および学校名等、応募者が特定される情報の記入は不可とします。
- ・ 応募用紙（コピー可）に必要事項を記入の上、**同封して提出**してください（のり等による提案書への貼付け不可）。

■ 応募

- ・ 応募資格：**全国の高等学校に在籍する生徒**です。
- ・ 応募は個人とし、グループでの応募は不可とします。
- ・ 質疑応答は行わない。但し、実行委員会より、補足解説や追加情報などをホームページにて発信する場合がありますので、**ホームページの情報更新にご注意**ください。
- ・ 設計部門とアイデア部門のいずれかの応募用紙とともに作品を郵送してください。
- ・ 提出期限：**2018年9月1日（土）**。提出は郵送のみとし、当日消印有効です。
- ・ 提出先：〒813-8503 福岡市東区松香台2丁目3番1号
九州産業大学建築都市工学部「プロコン」実行委員会 / e-mail：procon@ml.kyusan-u.ac.jp

■ 審査委員

- ・ 九州産業大学建築都市工学部教員他
- ・ 審査委員長：都市デザイン工学科 山下 三平 教授

■ 賞

一次審査を通過した者を入選者とし、入選者には、**11月4日（日）、本学にて開催の最終発表・審査会で発表**をしてもらいます。その発表を元に最終審査を行い、次の各賞の入賞者を決定します。なお、**設計部門、アイデア部門は分けずにあわせて審査**をします。入賞者には賞状および賞品を贈呈し、あわせて入賞者が在籍する高等学校に副賞を寄贈します。賞品は図書カード等です。

グランプリ	： 1点（賞品 12万円）
金賞	： 1点（賞品 6万円）
銀賞	： 2点（賞品 3万円）
銅賞	： 3点（賞品 1万円）
奨励賞	： 5点（賞品 5千円）
副賞	： 入賞者が在籍する高等学校へ（賞品 1万円）

■ 一次審査結果発表と最終発表・審査会等

- ・ 一次審査結果発表：**2018年9月28日（金）**
一次審査を通過し、最終発表・審査会へ進む入選者を、ホームページに掲載するとともに、入選者に直接通知します。
- ・ **2018年11月4日（日）に、最終発表・審査会および授賞式・懇親会を行います（終日予定）。**
- ・ 最終発表・審査会に出席する入選者および指導した教員の交通費（本学の規程に準ずる）は本学で負担。

■ 入試出願

入賞者は、本学建築都市工学部の出願条件を満たす学科の推薦入試に出願することができます。詳しくは、本学学生募集要項を参照してください。

■ 図面および提案書の返却

一次審査通過の入選作品を含む全ての応募作品は、一次審査結果発表後3ヶ月以内に提出図面のみ高等学校宛に一括して返却します。入選作品については、大学でそのコピーを保管します。一括返却前の返却要請には対応できません。文化祭等で提出図面が必要となる場合は、あらかじめコピー等をとるようにしてください。

応募作品の著作権は応募者に帰属しますが、応募作品の利用に関する権利は、九州産業大学建築都市工学部に帰属するものとします。



九州産業大学

応募要項と応募用紙は、本学ホームページ <http://www.kyusan-u.ac.jp/> からダウンロードできます。